



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

---

CITATION:

質疑應答. 天界 1942, 22(249): 86-86

ISSUE DATE:

1942-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168345>

RIGHT:

線に沿つてうまく現はれて居る。唯四つ丈例外がある。即ちオレンジ色のボククス星の絶対光度は+1.2であるが、スペクトル型は G8で、曲線の右にうまく現はされ、太陽型の本統の巨星である。他の3つの例外は、シリウス星の伴星と、エリダヌ40番星の青い伴星と、ヴァン・マレーン星である。3つのスペクトル型は A と F であるが、絶體光度はスペクトル型と比較して普通な星よりもづつと劣るものである。此の星は「白色矮星」の稱があり、現在では僅かに6つ位の星が知られて居る。凡て温度は高く、従つて、表面の平方哩に付き莫大な量のエネルギーを放出する。明るさが低いので大さは小さいに違ひないし、直径は地球の1倍から3倍に過ぎないに相違ない。質量も亦小さく、恐らく太陽の10分の1に等しいものに及んで居る。(シリウス星の伴星は太陽の質量位なものだと知られて居る)密度は驚く勿れ水の5萬倍から40萬倍高いことが譯つて居る。

概括すれば、太陽から10パセク(32.6光年)の直径の球狀體に現在121ケの星に加へて、39ケの伴星が譯つて居る。之は35立方パセク毎に二つ恒星星があるが、12.5パセク毎に一つの星があると知られて居る吾々の極く近くでは密度はずつと大きく見えるものと意味すると思ふ。又實際、5立方パセク毎に一樣に一つの星があるものと思ふ。O や B 型の極めて明るく熱い星は大層稀に相違ない。蓋し160ケの星の中には(伴星を含めて)此の型の星は一つもない。然し A 型から B 型までの恒星型は凡て含まれて居る。此等の星の明るさは太陽の5萬分の1から50倍までである。大多數の星は殊に可成り太陽より明るさがおとり、僅か160ケの内20ケ丈が明るいに過ぎない。160ケの中には3つの白色矮星(即ち約2パーセント)がある。然し之等の星は吾々から5パセク(16.3光年の距離)内に凡てあるので、全體として星の中には百分率は極めて大きいのは當然と思はれる。(A. S. P. Leaflet 107 佐登兒譯)

## 質 問 應 答

問ひ：“何々天文臺”“何々觀測所”“何々觀象臺”等々の名稱を獲るためには何等かの資格か、又は設備上の規定があるのですか？(FF生)

答へ：絶対に何の規定もありません。全く御自由です。要は學術研究上の良心的な覺悟と、其の實蹟によつて、學界に認められるべきです。立派な名稱と設備とが有つても、研究の實蹟が擧らなければ、世間から笑はれるばかりです。(山本)

## 天 界 正 誤 表

第248號(昭和17年第2號)

第56頁下ヨリ6行目

誤

氣豫狀態

正

氣象狀態